

9. 災害支援助産師養成講座

「母子の心と体を守る」

一般社団法人 静岡県助産師会

代表 草野 恵子

1. 事業目的

災害時において、母子は要援護者に位置付けられている。しかし、近年起きている災害時の状況では、必ずしも妊産婦や母子は優先される要援護者とはなり得ていない現状がある。私達は助産師の職能団体として、妊産婦や母子とその家族、女性のライフサイクルに寄り添うことを専門にしている。災害時においては、地域で活動している助産師は個々がネットワークを使い活動をしなければならないことも想定される。講座に参加することによって、災害支援について知識を得て、具体的に災害時の活動を考え、助産師としての専門性を生かした母子支援ができるように準備ができ、力を発揮することができる。また、平時の母子の防災・減災教育の支援活動にも生かしていける力を習得する。

2. 事業内容

- ・静岡県における災害時医療体制と静岡県の動きについて県の担当者より講義を受ける。その中で、妊産婦・新生児などに特化した対応についての現状を知る。
- ・地域で活動するにあたり、避難所等での特に女性の視点からの実態や課題についての講演を聞く。
- ・実際に非常食の試食、日頃から準備できる母

子への非日常での工夫について演習する。

- ・どのように行動したらよいか、準備をしたらよいかを地域の特性などを考えながらグループディスカッションし、まとめる。



3. 実施日時

平成 29 年 10 月 29 日（日）9：00～16：30

4. 実施場所

静岡労政会館 第 3 会議室＋展示室

5. 対象者 助産師

6. 参加人数

39 名申し込み 当日参加者 29 名



7. 事業の成果

同講座を昨年度より開催しており、受講者を増やしていきたい計画でいる。

受講申し込みが 39 名あったが、当日朝より台風 22 号の接近により交通機関の乱れが予想されていた事、分娩等の都合により欠席者があり、当日の参加者が 29 名とかなり少ない人数の受講となってしまった。

また、台風接近の中、県内各地より受講者が来ているため、昼食時の気象状況等の判断で講座終了時間を早める予定で進行した。

アンケートの中でも、割愛したグループワークができなかったことに残念である感想が見られた。その中でも、講座についてはおおむね満足の評価を得られている。（受講者のアンケート結果は別紙参照。）

講座内容として、

1、10:00～10:15 静岡県健康福祉部地域医療課 小野友花氏より

今年度から、静岡県内でも静岡県産婦人科医会が主催で「母体救命講習会」を実施予定。事業について説明。

2、10:15～11:00 静岡県健康福祉部医療健康局技監 奈良雅文氏より

・「静岡県の災害医療体制」について静岡県医療救護体制の概要や医療救護計画について静岡県の特性を踏まえた説明。その中で、周産期医療の位置づけ、妊産婦のトリアージについても解説された。原子力災害に備えた安定ヨウ素剤の配布・服用について、妊産婦や授乳婦・乳幼児に対しての解説。

・静岡県の災害医療体制の中で、女性の災害医療コーディネーターが少ないことや、助産師職が少ないことも講演の中で話された。妊婦は軽症患者の取り扱いである事、救護施設では、治療ではなく処置である事などを知っておくことは大事である。

3、11:00～12:00 演習

・協働団体の NPO 法人だっことおんぶの研究所、

園田正世氏より避難時の乳幼児の輸送方法の説明、さらしを使用した方法を実習。

- ・災害時の置換ミルクやオムツの代用法、布ナプキン、段ボールトイレ、非常食の実際や試食、助産師として紙コップトラウベ、ゼロ次グッズのすすめの説明。実際に作成したり試食したりした。
- ・その他、災害時の母子に関わる活動の記録、冊子やスクラップ、トピックス等を展示。

4、13:00～14:30 静岡大学教育学部教授・減災と男女共同参画研修推進センター共同代表池田恵子氏より「女性の視点から見た避難所の課題と対策について」の講演

- ・12:00 時点での気象情報と交通機関の様子から早めに切り上げ、帰宅したほうが良いと判断したため、池田先生にはその旨で講演をお願いした。
- ・災害関連死の5割は避難所などにおける肉体的、精神的疲労が原因である。避難所での困難は性別・立場別によって違い、安全面においては常時起きている問題は非常時においても起きている問題になる。「非常時なのだから皆一緒」というわけにはならない。災害時要援護者や様々な人々に対しての配慮する視点が必要である。
- ・助産師として避難所で何ができるのか。どのようにかわる事が避難所運営に役立つのか考えることができる講演であった。
- ・講演後、グループワークも設定されていたが今回は中止とした。

8. 今後の展望

災害時支援助産師養成講座を開催し、地域で活動している助産師が災害時に助産師として女性や妊婦、母子に支援できる体制を整えていけるようにしていきたいと考えている。高齢化社会の中、妊産婦・乳幼児の数は割合にしたら少数になる現代、ある講演で「妊産婦はマイノリティと考えてよい」と聞いた。マイノリティで

も集まることで強い力を発揮できる。助産師はそのつなぎ役になれるので、日頃から妊婦同士や母親同士が防災について考え、自助活動できるように働きかけることもできるだろう。

行政との連携、他団体とのつながり、助産師のネットワークづくりなど準備しなければならないことはたくさんある。今年度、磐田市を筆頭に伊豆市と協力協定を結び、他の市町からも声かけされている。助産師の存在や専門性についても理解され、母子の支援に必要とされてきていると感じる。

この養成講座は、初めの一步と考えているので、受講者を増やしそれぞれが次のステップに進めるものにしたい。

9. 協働団体

- ・特定非営利活動法人 だっことおんぶの研究所

